

昨年の7月のある日、冷凍庫を開けるとツバメが入っていました。お母さんに聞いてみると、死骸を見つけたから拾ったとの事でした。ずっと冷凍庫に入れているわけにもいかず、しかしながら学校でも感染症などの問題があるから解剖は出来ないと言われました。結局、仕方が無く家で羽標本にすることにしました。というわけで、今回のいきもの記は、これまで5回解剖をしてきた解剖系JK（自称）が、ツバメの羽標本を作った記録です。（実は、このツバメがはじめての解剖です。）

～ホノカの羽標本3日クッキング～

- 1日目：拾ってきた死骸を冷凍します。
（細菌の繁殖が抑えられます。）
- 2日目：解凍し肩と腕を切り落とします。羽を抜いていきます
（固いので注意）。
抜いた羽を名前ごとに洗って乾かします。
（羽が飛んでいかないように気をつけましょう。）
- 3日目：乾燥させた羽を並べて（センスが問われます）保存して完成です。

どうですか？意外と簡単そうに見えますよね。ですが、根気が必要な細かい作業です。好奇心で腹も開いてみたのですが、内臓はドロドロに溶けていて原型を留めていなかったです。7月の平均気温は28.7℃と暑いため無理もない…。

ツバメは、春になると繁殖のためにフィリピンやベトナムなどの南方から日本にやってきます。その距離は2,000km～5,000km！！あの素早い飛び方が魅力的ですよ！最高速度で時速200kmもの速さで飛ぶことができます。

ここで、ツバメの性別の見分け方を紹介します。尾羽の両端を見てください。オスは77～110mm、メスは68～92mmで、メスの方が尾羽が短いことが分かります。また、喉の色でも見分けられオスはメスよりも喉の赤色が濃くなります。この個体の尾羽は89mmで、喉の色はオスと比べてみると色が薄くメスだと判断できました。ちなみに、オスは尾羽が長い方がモテるそう。

他の鳥と比べて違うのは…次列風切羽の先端の形。ハートのような形をしているように見えますね。次列風切羽は飛ぶために重要な役割を果たしており、鳥の体を押し上げる力を生み出しています。ここに速く飛ぶ秘密があるのでしょうか？今後の課題したいと思います。



肩を切り落とす位置のスケッチ

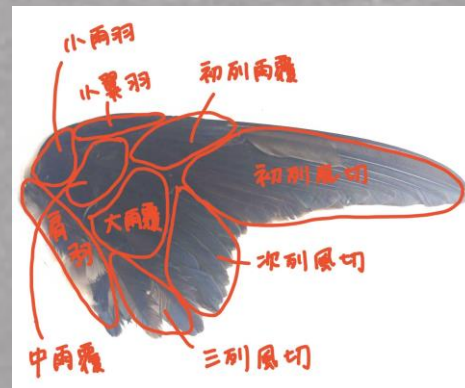


拾う前のツバメ(道路の真ん中に落ちていました。)

ツバメの羽標本



作成した羽標本。右翼の羽をばらばらにして貼り付け、左翼は比較のためにばらさないままにしました。文化祭の蟲部屋でも展示しました。



翼の各部の名称



トラツグミ



キジバト

次列風切羽